



あくしゅ

〈発行・編集〉

座間市男女共同参画推進委員会

座間市市民部広報広聴人権課

〒252-8566 神奈川県座間市緑ヶ丘1-1-1

☎046(252)8087(直) FAX046(252)0220

再生紙を使用しています。

2015 IN ZAMA フォトコン結果発表



最優秀賞

男女共同参画社会とは？

男女共同参画社会とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的および文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」です。（男女共同参画社会基本法第2条）

パネム

ママ1年生

タイトル

パパの絵本に興味津々！

コメント

家族でショッピングセンターへ買い物に出かけ、赤ちゃん休憩室に二人だけで数分待ってもらっていた間、夫が娘に絵本を読んであげていました。いつも絵本を見るより噛みつきこうとする娘ですが、この時は絵本に興味をもって面白そうに見ていました。



イクメン部門



イクジョイ部門

パネム 座間 由夫

タイトル ボール遊び

コメント 「いくよ〜!」「はいよ〜!」会話もキャッチボールで!



カシ男部門

パネム M.H

タイトル いつもの朝

コメント ゴミ出し、子供の送迎お疲れさま

パネム みーちゃん

タイトル 気づけば…

コメント 娘を寝かしつけていましたが、少しして見てみるとおんじ恰好で寝てました。

イクメン：育児を楽しむお父さん

イクジョイ：育児を楽しむおじいちゃん

カシ男：家事に積極的に取り組む男性



※コメントは応募者からのコメントを掲載しています。

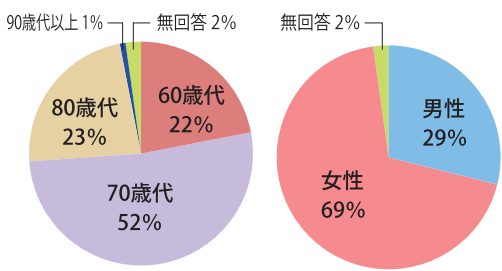
政府は男性の育児休暇取得率を13%に引き上げることが目標にするなど、ワーク・ライフ・バランスがさらに推進されていますが、座間市においての推進の一環として、昨年引き続き「イクイ男フォトコン」を行いました。たくさんのご応募ありがとうございました。

子どもや孫との心とむ写真や、家事に積極的な男性の写真が男女共同参画社会の浸透を物語っています。その中から、今回はコメントも重視して受賞作品を選考しました。受賞者の喜びの声を3面で紹介しています。

子育て世代にとって「イクジョイ」は人生の大先輩。そのシニア世代は、地域の担い手としても期待が高まっています。市内シニア層の生の声を聞きました。次の紙面をご覧ください。

対象者について

- ・アンケート有効回答数 485 枚
- ・座間市民ふるさとまつり来場者、座間市老人クラブ連合会会員、座間市四十雀倶楽部の方他

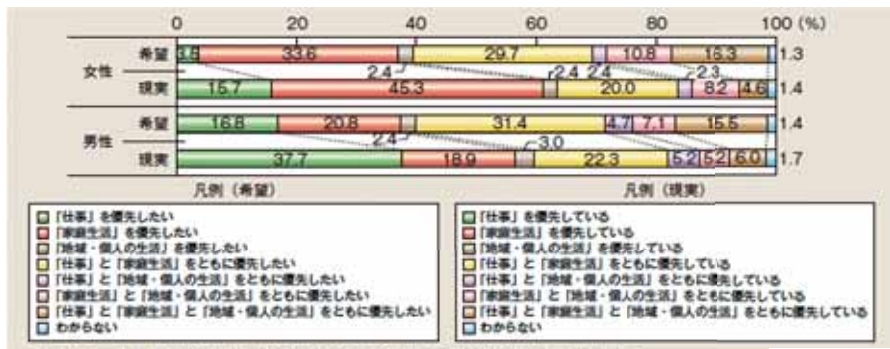


「あくしゅ」では過去2回、高校生・子育て層という世代別に男女共同参画について座談会を行い、探ってきました。（平成23年3月15日号、平成26年3月15日号※詳しくは4面のQRコードから座間市ホームページをご覧ください。）

今回は、今まで取り上げていない市内のシニア層の生の声を聞くために、内閣府「仕事と生活の調和に関する希望と現実」（表1）の調査結果を参考にし、ワーク・ライフ・バランスについてアンケート調査を行いました。なお、アンケートの対象者の年代を踏まえ、地域活動を仕事の中に入れました。世論では表1のように希望と現実にかい離がありますが、市内シニア層ではどうでしょうか？

皆さんのこれからの人生の参考にして頂ければと思います。

（表1）仕事と生活の調和に関する希望と現実



（備考）1. 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（平成24年10月調査）より作成。
 2. 集計対象者数は、女性1,601人、男性1,432人。
 3. 希望と現実にもっと近いものをそれぞれ1つ回答。



『男女共同参画白書平成27年版 第1節仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）をめぐる状況（1-3-1 図）』より

Q1 現在優先しているものは？

女性には「家庭生活」

男性には「家庭生活と個人」

現在の生活についてお聞きしました。表2のグラフを見ると女性と男性の優先しているものが異なっている事が分かります。女性は突出し

Q2 理想として優先したいものは？

女性には「家庭生活」

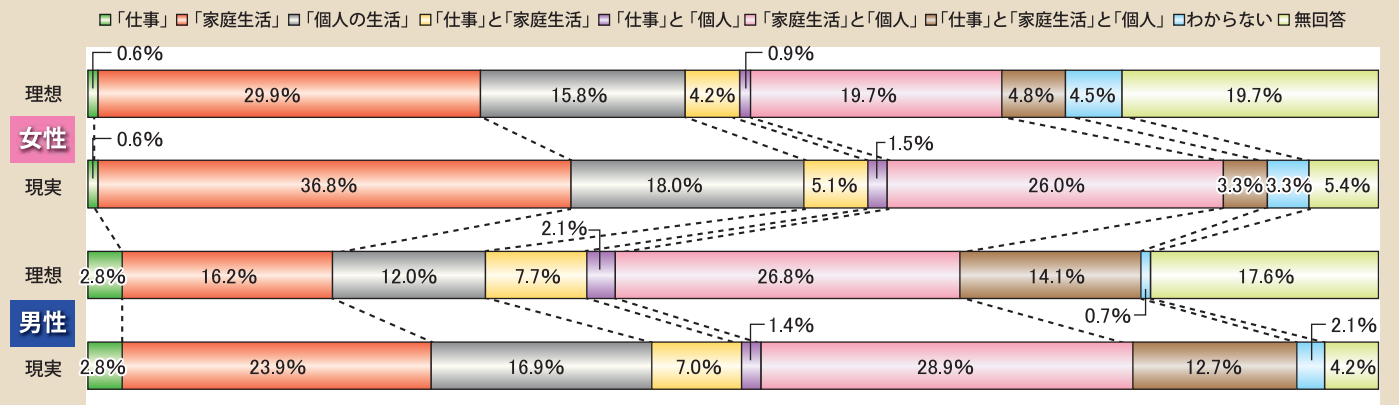
男性には少し変化が

て「家庭生活」を優先しています。男性は「家庭生活と個人」を優先しているのが分かります。ただし、男性の場合「家庭生活」、「個人の生活」、「家庭生活と個人の生活」は、女性に比べると差がありません。選ばれた回答を割合の大きいものから見ていくと、女性は「家庭生活」を中心に仕事や個人の生活があり、一方男性は「個人の生活」を中心に仕事や家庭生活の生活があることがうかがえます。

次に理想として優先したいものもお聞きしました。女性はこちら（表2）でも「家庭生活」が突出しています。それ以外の項目も現在優先されているものとほぼ変わらないことが分かります。男性を見ると少し動きがあります。「家庭生活」と「個人の生活」が少し減少し、「家庭生活と個人」と「仕事と家庭生活と個人」が伸びています。これはパートナーを今よりも助けたい、もしくは今よりも自立したい現れなのかもしれません。



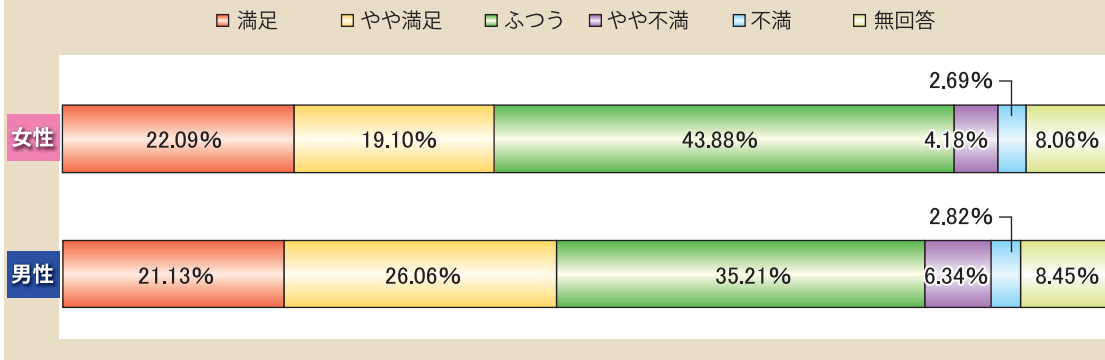
（表2）市内シニア層の「仕事と生活の調和に関する理想と現実」



③現在の仕事と生活の調和の満足度は？

現在の仕事と生活の調和の満足度についてもお聞きしました。(表3) クラブから、女性は男性よりも満足度が低く、「ふつう」と思われている方が多いようです。

(表3) 現在の仕事と生活の調和の満足度



④ワーク・ライフ・バランス

最後にワーク・ライフ・バランスについてのイメージを自由回答でお聞きしました。

最も印象的だったのは、「家庭生活を中心に余裕時間で仕事を行うことが大切とされています。家庭生活だけではマンネリ化し老化が進むように思います。」というものです。設問と少しずれてはいますが次のような回答も頂きました。「80歳を超えてくると仕事は厳しくなり、人の支援より自分の生きることに精一杯になるので老老介護が心配」「介護と家事と個人の生活のバランスを考えている」「自分の健康と知的バランスの崩れが来るのを恐れています」など、今の生活への不安を綴った内容が多く寄せられていました。また、「年を重ねたら何もしないで楽しい生活が待っていると若い頃には考えていましたが、現実には経済的にも苦しく、心と体のバランスがうまくいかない」と現役時代に描いていた将来像とのギャップが書かれた物もありました。

今回のアンケートから、シニア層のワーク・ライフ・バランスについて理想と現実の差があまりないことが分かりました。満足度を見ると半数の人が満足と答えています。しかし、男女別に見ると、女性の方が満足度は低いという興味深い数値も出ています。



最優秀賞 (ママ一年生)

【感想】

何気ない二人の普段の姿なので、受賞に驚きと嬉しさを感じています。

【あなたにとってイクメンとは】

共働きが増える中、男性も育児や家事に積極的に関わり、夫婦で協力し合えることは、家族間のコミュニケーションを深め、円満な家庭を築く鍵となると思います。育児や家事を手伝うという意識ではなく、自然と関われる人こそ本当のイクメンだと思います。

カシ男部門賞 (M.H)

【感想】

「ゴミを出しながら子供を送っていく」という日常の光景が共感を集めたことを嬉しく思います。

【あなたにとってカシ男とは】

生活していく上で欠かせない人。家事は男女関係なくやって当たり前だが、感謝すべき人。

イクメン部門賞 (みーちゃん)

【感想】

娘に感謝です。

【あなたにとってイクメンとは】

母強し、日々勉強、感謝

イクツイ部門賞 (座間由夫)

【感想】

孫たちへのプレゼントになるのではないかと感謝です。

【あなたにとってイクツイとは】

県内にそれぞれ別居している5人の孫が折あることに帰ってきて来て、「じいちゃんーじいちゃんー」と引ッ張りの回され、苦戦し、少し疲れることもありませんが、一緒に遊んでいるのが私にとっての「元気の素」といえるでしょう。

女性活躍推進法が成立しました。

平成 27 年 8 月 28 日、女性活躍推進法 (女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)が成立しました。

働く場面で活躍したいという希望を持つ全ての女性が、その個性と能力を十分に発揮できる社会を実現するために、女性の活躍推進に向けた数値目標を盛り込んだ行動計画の策定・公表や、女性の職業選択に資する情報の公表が事業主 (国や地方公共団体、民間企業等※)に義務付けられました。

※常時雇用する労働者が 300 人以下の民間企業等にあつては努力義務
詳しくは、「内閣府 男女共同参画局」のホームページ等をご覧ください

6月23日(火)~29日(月)

『男女共同参画週間』

市民サロンに特設啓発ブースで、男女共同参画の意識や考え方についての紹介とDVDの上映

6月24日(水)

『男女共同参画社会づくりに向けての全国会議』

東京国際フォーラムにて行われた、内閣府男女共同参画局主催の会議に出席

6月27日(土)

『あくしゅフォーラム』の開催

市民文化会館(ハーモニーホール座間)小ホール

講演『キッチンからはじまる家族の絆』

講師 コウケンテツ氏(料理研究家)

11月1日(日)

座間市民ふるさとまつりで、男女共同参画に関する市民の皆さんへの意識啓発、イイ男フォトコン応募作品の掲示及びシニア層へのアンケート

平成28年3月

情報紙「あくしゅ」の発行

企画・編集は平成27年夏ごろから随時

今年度はイクメンと呼ばれる若き料理研究家コウケンテツ氏をお迎えし、テレビでお馴染みのソフトな語り口で講演が始まりました。まず、日本の野菜消費量が少ない、このままだと将来が危ないと警告され、あのファーストフード天国だったアメリカよりも日本の消費量が少なくなつたとのデータが発表されショック。これはアメリカが1977年から、国をあげて野菜中心の食生活改善に取り組んだ結果とのことでした。更に「人の命は、食べた野菜の消費量に比例する」と古守豊甫氏の言葉を引用しての食に関する話題や、韓国出身の母親や自身の子育て、仕事で体験した海外の食や暮らしを、紹介されました。

第13回あくしゅフォーラム 開催報告



コウケンテツ氏



アジアの他の国々ではイクメンなどという言葉がなく、家事をする男性は当たり前。それに比べ日本の男女平等フロンキングは、中南米、アフリカ諸国やアジアの中でも極めて低く、驚きました。「夫の家事時間が多いのに比例して妻の幸福度が上がる。」また、「妻が夫に再教育してバージョンアップさせるなど、幸せな夫婦は妻の夫の扱いが上手であります!」と締めくくられました。料理研究家の講師にどんなお昼をと悩んでいますでしたが、「事前に食べてきました!」との気遣いに感動しました。

イクメン・イクメン・イクメン... 子育ての楽しさを伝えるイベント

「これからチャレンジしたいこと」など自由なご意見も伺いました。年齢、性別、現役か否か、現職や前職などにかかわらず、チャレンジしたいことをいろいろとお持ちでした。

まず、心身の健康をいかに長く維持するかがチャレンジであり、東京オリンピックまで元気でいよう、毎日の生活リズムを整える、現在の趣味の継続など具体的な目標に取り組んでいる方も多かったです。次に、やっと自分の時間ができたので、好奇心旺盛にやりたかったことを実現させたい、具体的には旅行や新たな趣味やスポーツを始める、経済の勉強、語学習得やパソコンの習熟など、80歳以上でもまだ仕事をしたいと考える方も。

一番多かったのが、地域への貢献やボランティア活動でした。子どもから高齢者まで楽しく住みやすいまちづくりをめざしての活動や、地域活性化のためのビジョンをお持ちの方など、地域活動の強力な担い手である、そうありたいと思っているシニアがかなり多いことがわかりました。

高度成長期に培われた豊富な知識と経験を持ち、地域をより良くするために力を発揮したいと思っっている元気なシニアが活躍するため、今よりもっと多様な場を設けていくことが必要だと思われま

と〜お〜びれい

企業の新たなステータス『くるみん認定』を知っていますか?

「ワーク・ライフ・バランス」の推進を後押しする制度として、「くるみん認定」と呼ばれる認定制度があります。これは、企業が従業員の仕事と子育ての両立支援を図るための具体的な行動計画を策定し、その計画に定めた目標を達成するなど、一定の要件を満たした場合、申請により「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定を受けることができる制度です。認定を受けると、認定マーク(愛称:くるみん)を商品や広告媒体、求人広告などに使用することが認められ、「子育てサポート企業」であることをアピールすることができます。その結果、企業イメージアップなどが期待できます。

現在くるみんマーク取得企業は2000社を超えています。座間市でもそんな企業が増えるといいですね。(認定企業のリストは左のQRコードから厚生労働省のホームページをご覧ください。)



情報紙「あくしゅ」のバックナンバーはこちらから! (PDFでご覧いただけます)

様々な相談・支援窓口の紹介「あくしゅインフォメーション」はこちらから!



※QRコードが使用できない方は、座間市 男女共同参画 検索 で、検索してください。